

臨時聖年の総括

2015年12月8日に始まった臨時の聖年、「赦しの聖年」は2016年11月20日に閉幕した。最終日にはサンピエトロ教会の閉じられる直前の「聖なる扉」を通り抜けるために多くの信者たちが列を作った。ヴァチカンの公式記録によると、この期間に扉を通過したのが2,100万人と発表された。一方、ローマのホテル協会の発表では、ローマに来て宿泊した巡礼者は1,400万人という。この数字の差は、日帰りでホテルに泊まらなかった人、またB&B施設に泊まった人が数に入らないことによる。この巡礼の信者の数が多かったか、少なかったかについては、意見が分かれる。現法王が臨時の聖年の制定を発表した時には、ローマのホテル協会はこれで世界から多くの信者が来て宿泊するというので歓迎の辞を述べていた。しかし、その後、フランス、ベルギー等で起こったテロ事件と、世界的経済の低迷により、ローマを訪れた巡礼者は非常に少なかったとホテル関係者は述べている。

一方、アンドレアッタ大司教は次のように述べている。「ホテル協会の人たちの見解は間違えていると思う。本年、もし、聖年がなかったら、経済危機とテロの脅威のために1,400万人の宿泊客は来なかっただろう。聖年は被害を最小限に食い止めたのだ。そして、ローマに来た者は本当に信仰を深めると共に秘跡を得たことだろう。また非常に多くの若者たちの姿を見た。さらに、聖年は多くの病人や身体障害者を呼び寄せた。その人たちの数は5万人に上る。救急車の使用は450回に上り、4,200台の車イスを用意した。そこにはイタリアの50の県からやって来た600人のボランティアが活躍していた。」

法王は「聖なる扉は閉まるけれども、キリストの心である『赦し』の真の扉は常に開いているのだ」と述べ、「神の最大の敵は金だ。金は偶像崇拜だ。この世界で命令するものだ。金はこの世で役に立つ道具だが、貧は福音の中心である。キリストは次のように述べている。『神と金。二人の支配者。悪魔はいつもポケットに入る。貧者のために貧しい教会にするのが人の務めだ』」と、お金についても言及した。

法王庁内に改革反対の人がいる

現法王の貧しい人たちのための貧しい教会への改革案は、一般信者に大変歓迎されていて、法王の人気は絶大である。しかし、この改革について法王庁内の上位者の中には反対する者が多いようだ。

ローマ法王は、クリスマスの折りに、ローマ滞在の枢機卿や法王庁内の司教に対して例年恒例となったスピーチをしている。2013年には「命の奉仕と聖性」について、2014年には「法王庁内の病」について、2015年には「不可欠な徳のカタログ」について話をしている。今回2016年は、法王庁の改革について反対する保守的な人々を激しい言葉で攻撃した。

改革反対に3つのタイプがあるという。1番目は「心は開いている」が、善意の誠実な対話の後ろに隠れている。2番目は「隠れている」者は不安心と無慈悲の者であり、精神のサーバル・キャットの虚しい言葉である。3番目は「天使の服をまとった」者は自分の言葉を正す後ろ側に隠れ、あるいは多くの場合、弾劾演説の後ろに、伝統の後ろに、または表面性の中に、形式論の中に、知識の中に、また誰と指名することもなくすべてを人事に押しつけ

ようとする者である。

法王は機構的改革のみならず、各省庁、事務所内の職員の削減を図り、代わりに女性や一般信者を登用しようと考えている。

法王は反対する聖職者の名前を声だかにあげて非難している。その一人がアメリカ人のレイモンド・レオ・バーク (Raymond Leo Burke) である。彼は教会を離婚者や再婚者に解放することを恐れているという。そこから大きな抵抗が生まれているようだ。

妊娠中絶した女性、それにあずかった医師、看護師を赦そう

臨時の聖年を終えたばかりの法王は昨年11月21日に、今まで妊娠中絶した女性たちは「破門」の烙印を押されていたが、今後妊娠中絶したことを、教会の司祭に告白すれば、その司祭から「破門」の烙印は解消され、罪は赦されることを宣言した。

妊娠中絶に関する事件の取り扱いは昔から非常に難しく、教会としては、人間の生命に関するものとして断固たる処置をとってきて、「破門」という罪状を渡していた。

キリスト教を公認した皇帝コンスタンティヌスは、ローマ法になかった妊娠中絶について、キリスト教の教えの中で「死罪」と定義した。229代目の法王グレゴリオ14世は、1519年に、胎児がまだ魂を持っていない妊娠後40日以前ならば中絶をしても罪にならないと規定した。法王ピオ9世は1869年、いかなる中絶も妊娠以降は「破門」の罪に値するとした。1995年法王ヨハネ・パオロ2世はすべての妊娠中絶のみならず、中絶促進薬の服用も「破門」の対象になるとした。ベネディクト16世は2006年、人間の一生は母の懐から始まり、最後の一息まで続くのだと定義した。

現法王は、中絶を告白すれば、担当司教によって「破門」の罪は赦されるとした。しかし、今後妊娠中絶することは「破門」の罪になるのか、もしくはならないのかは言明していない。このことは「赦し」の聖年が終わった後の法王からの一つの贈り物なのだろうか。

法王は満80歳に

昨年12月17日は法王フランチェスコの満80歳の誕生日だった。当日法王は先ず7時15分の朝食に家のない路上生活者8人を招いて一緒に30分間食事をした。その8人はヴァチカン近辺の路上に寝起きしている者で、6人が男性、2人が女性だった。そのうち4人がイタリア人で、2人がルーマニア人で、1人がモルディブ人で残りの1人がペルー人だった。

その後、法王は枢機卿たちと一緒に、ヴァチカン内のミケランジェロの壁画のあるパオリーナ礼拝堂でミサをあげた。そして、その後の話の中で同じことを6回繰り返した。それはキリストの言葉である。「主は手を上げて、『前に進め』と言って、そこにいる。これがキリスト教徒の生活である。つまり、前に進め！ 決定的邂逅に向かって！」続いて法王は「歳を取るということは心が安らかになるということだ」と笑いながら「私という者が安らかであり、信心深い者であり、実り多き者であり、喜びに溢れる者である」ように祈って下さいと訴えた。

世界から誕生日祝いのメールが7万通以上、世界の政財界から大量の祝いの電報と電話があった。その中には、もちろん、イタリア大統領マッテレッラ、アメリカ大統領オバマのお祝いの電報、ロシア大統領プーチンの祝電も含まれている。